



2020年度第1回セミナー

生涯学習に向き合う 人・企業・社会

～価値創造とリスクの視点で～

2021年2月9日（火） 16:00～18:00

止まらない少子高齢化、DXをはじめとする技術革新による産業構造の転換、コロナ禍における働き方変革という環境下で、企業経営者に求められる人材育成への取り組みに関して、社会全体からの視点（ESGのS）を踏まえて議論する。

生涯教育の専門家である東京大学大学院教育学研究科 牧野 篤 教授から基調報告にて示唆をいただき、企業の人材育成関係者、ESG投資家関係者、企業の調査部門関係者を交えたパネルディスカッションを通じて、生涯学習に向き合う人・企業・社会に関して、価値創造とリスクの両方の角度から、今後の取り組むべき方向を探る。

16:00-16:10 開会挨拶

日本価値創造ERM学会 会長 日本工業大学大学院技術経営研究科 教授 三宅 将之

16:10-16:50 第1部：基調報告

「“学び”という運動へ ～生涯学習から見た地域社会・市場、そして人～」

東京大学 大学院教育学研究科 教授 牧野 篤

16:50-17:00（休憩）

17:00-18:00 第2部：パネルディスカッション

「生涯学習に向き合う人・企業・社会 ～価値創造とリスクの視点で～」

<パネリスト>

大塚ホールディングス 常務執行役員 人材企画部長 笠 章子

日興アセットマネジメント 株式運用部長 兼 オルタナティブ運用部長 石川 康

第一生命経済研究所 常務取締役 榎並 重人

東京ガス株式会社リビング企画部ライフバル監査役チーム 吉野 太郎

東京大学 大学院教育学研究科 教授 牧野 篤

<モデレーター>

日本価値創造ERM学会 会長 日本工業大学大学院技術経営研究科 教授 三宅 将之



第1部 基調報告

東京大学 大学院教育学研究科 教授

牧野 篤

「“学び”という運動へ ～生涯学習から見た地域社会・市場、そして人～」

【報告要旨】

少子高齢人口減少社会悲観論から人生100年時代希望論への転換が求められています。私たちは、人類社会でもまれに見る長寿社会を実現した一方で、この社会には様々な分断線が引かれ、人々は孤立の前に立ちすくんでいるかのようです。これが人々の依存を生み、社会のイノベーションが起こらない大きな原因であるように見えます。一人ひとりの人材の質は高く、生まれれば誰もが長寿を享受できる夢のような社会をつくってきたのに、その社会の利点を活かさないでいるようです。これはこの社会全体の構造的な問題としてとらえられます。

生涯学習を専門として、人々が地域コミュニティで生活し、自らの人生を歩むとはどういうことなのかを見つめてきた報告者には、コミュニティや組織が再生に向けて動こうとする胎動のようなプロセスがあると考えています。そこでは、当事者性(当事者としてのあり方を獲得するプロセス)が問われます。

そしてその当事者性を問うコミュニティ再生のあり方においては、人という存在そのものが、これまでとは異なる姿を見せています。そのあり方をとらえることで、私たちは、新しい社会を構想することができるように思われます。そのキーワードは、個体から関係態へ、です。そして、一人ひとりが社会や組織のフルメンバーとして By All で活動するとき、そこにはそれぞれの生き方を映し出した、生成と変化のプロセスが現れます。それを報告者は「運動としての“学び”」ととらえています。

この“学び”をどう社会実装するのか。このことを皆さんと考えることができればと期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

第2部 パネルディスカッション

モデレーター 日本価値創造ERM学会 会長

三宅 将之

「生涯学習に向き合う人・企業・社会 ～価値創造とリスクの視点で～」

大塚ホールディングス 笠 章子氏（常務執行役員 人材企画部長）から人材育成に関する取組み事例を紹介いただき、下記の論点（案）についてパネルの方々でディスカッションします。

- ① 社会・産業構造の変化に直面しているが、企業経営者に求められるものとは？
 - ✓ 現在の人事制度に係る課題への対応
（例）経営幹部育成、スペシャリスト育成や定年制度、勤務地など
 - ✓ 大企業社員が、将来、中小企業やベンチャー企業、地域創生などに関わり活躍してもらうための課題は？その課題解決にはどのような支援が必要であるのか？
- ② 社員の生涯学習に関する積極的な人材投資を行うことは可能か？
 - ✓ 企業経営者の立場で、どのようにして合理的に説明可能か？
 - ✓ 投資家の立場で、どのようにして合理的に説明可能か？



基調報告者・パネリスト 紹介

東京大学 大学院
教育学研究科
教授
牧野 篤

東京大学大学院教育学研究科教授 博士(教育学)

名古屋大学大学院教育学研究科博士課程修了後、名古屋大学助教授、教授を経て、2008年より現職。2013年～20年、東京大学高齢社会総合 研究機構副機構長併任。専門は社会教育学・生涯学習論および東アジア地域の成人教育と社会開発。文部科学省中央教育審議会委員(第8期より)。

人が生活の営みを続け、成長していくことに現れるさまざまな事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えること、とくにコミュニティの自律と住民の学習とのかかわりに関心がある。

愛知県豊田市中心間村再生事業「若者よ田舎をめざそうプロジェクト」、千葉県柏市「多世代交流型コミュニティ形成」プロジェクト、ものづくりの社会化プロジェクト「MONO-LAB-JAPAN」など、多彩なアクターと連携して、コミュニティづくりなどに携わる。

著書には次のようなものがある。

- ◆『生きることとしての学び—自生するコミュニティと共変化する人々—』(東京大学出版会、2014年)
- ◆『社会づくりとしての学び—信頼を贈りあい、当事者性を復活する運動—』(東京大学出版会、2019年)
- ◆『人生100年時代の多世代共生—学びによるコミュニティの設計と実装—』(編著、東京大学出版会、2020年)



パネリスト 紹介

<p>【パネリスト】</p> <p>大塚ホールディングス 常務執行役員 人材企画部長 笠 章子</p>	<p>1986年に大塚製薬佐賀研究所入社、製品部でプロダクトマネージャーを経験後、欧米系企業4社にて勤務(ブランドマネージャー、事業部長、代表取締役など担当)。2009年、大塚製薬へ復職。マーケティング本部長、広報部長を経て、2015年より現職。芝浦工業大学理工学研究科博士課程在籍、北鎌倉女学園理事、技術同友会会員、日本ペンクラブ会員。</p>
<p>【パネリスト】</p> <p>日興アセットマネジメント 株式運用部長 兼 オルタナティブ運用部長 石川 康</p>	<p>2016年3月、オルタナティブ運用部長として日興アセットマネジメント(株)入社、2019年7月よりグローバル・マルチアセット共同ヘッドを兼務、2020年12月より株式運用部長を兼務。それ以前は野村証券(株)にて11年に渡る海外勤務(ロンドン、ニューヨーク)を含め、クオンツ運用戦略の開発に従事。1999年東京大学修士(物理学)、2019年京都大学博士(経営科学)。論文「日本企業の人材投資効率と株主価値」にて、2019年度証券アナリストジャーナル賞受賞。MPTフォーラム幹事。</p>
<p>【パネリスト】</p> <p>第一生命経済研究所 常務取締役 榎並 重人</p>	<p>第一生命保険(株)入社後、人材開発、同社の株式会社化・上場などを担当。現在は、キャリアコンサルタントとして、同社の社員のキャリア開発支援に携わる他、複数の大学にて大学生へのキャリア教育を担う。大学院にて主にミドル・シニアのキャリア発達について研究中。</p>
<p>【パネリスト】</p> <p>日本価値創造ERM学会 副会長 吉野 太郎</p>	<p>東京ガス株式会社リビング企画部ライフバル監査役チーム。2003年に同社監査部にてERMの導入を担当後、IR部(リスク管理グループ)を経て、総合企画部にてERMの運用、危機管理体制・BCP、内部統制(会社法)、およびそれらについての有価証券報告書等での情報開示等を2015年3月まで担当。2015年4月から現職。日本内部統制研究学会理事。</p> <p>著書に「全社的リスクマネジメント ミドルマネージャーがこれだけはやっておきたい8つの実施事項」(単著 中央経済社)、「事業会社のためのリスク管理・ERMの実務ガイド」(単著 中央経済社)、「COSO 全社的リスクマネジメント:戦略およびパフォーマンスとの統合」(共訳 同文館出版)、「備えるBCMから使えるBCMへ 持続的な企業価値の創造に向けて」(共著 慶応義塾大学出版会)</p>
<p>【モデレーター】</p> <p>日本価値創造ERM学会 会長 三宅 将之</p>	<p>日本興業銀行入行、企業金融、国内外の証券業務部門を経験し、野村総合研究所(主席コンサルタントとして、ERM関連の企画事業等)を経て、日本工業大学大学院 技術経営研究科 教授(現職)、Senior Executive Partner, Gartner Japan(現職)</p> <p>中堅・中小企業の経営人材育成、大手企業のCIOに向けたデジタル変革に関する助言業務などを中心に活動中。</p> <p>主な著書に『知財ポートフォリオ経営』(編著、東洋経済新報社)、『ケーススタディで学ぶ 起業と第二創業』(企画編集、インプレス)等</p>